

大阪新聞錦画 第 四 号

武加小太夫村の平左門とよその常い
 酔小云ふ若年先妻の嫁と二人中を託成
 を取かきぬいさど定うぬる嫁もあつたれ
 普禮ハ棺の前までしを呉れと云ふ明治八年
 四月として平左門ハ顔死ヤ其彼の遺言を
 信ト急ぐ近辺由左門が眼も神人を以て貫貫諸
 野送りの日ハ棺の前花嫁入込み歎み中悔
 やら高砂念佛の行ハヤを贈物あ事うれれを
 有る物世の云ふ泣笑ハの故言宜あつたか遺言
 も考へて云ぬと難あかあとか出来うへと
 續々會百一号ハ出らん

々々花堂誌



小太夫村

平左門
 若年
 先妻